定 例 記 者 会 見

未来へつながる道 田辺市
JUNCTION TO THE FUTURE
ともに歩こう。次の１０００年へ。

令和８年 田辺市文化賞について

日　時　　令和８年10月28日（水）　午前10時～

出席者　　木村 晃和　田辺市副市長　　乾　善亮　総務部長
　　高井 正臣　秘書課長　　中岡 寛之　秘書係長

田 辺 市 文 化 賞

未来へつながる道 田辺市
JUNCTION TO THE FUTURE
ともに歩こう。次の１０００年へ。

田辺市では、「歴史と伝統に学び、教養を高め、文化のかおるまち」をめざし、毎年11月に本市の文化の発展に貢献いただいた方々に『田辺市文化賞』をお贈りし、その功績を顕彰しています。

◆昭和45年創設（旧田辺市において創設）

◆本年57回目を迎える

◆昨年までの受賞者85名（うち旧田辺市 54名、現田辺市 31名）

田 辺 市 文 化 賞

未来へつながる道 田辺市
JUNCTION TO THE FUTURE
ともに歩こう。次の１０００年へ。

令和８年 受賞者

曽我部 大剛 氏



長年にわたり、文化財及び郷土史の調査研究に尽力し、地域の歴史や文化に光を当てるとともに、文化の継承及び振興に寄与される。

田 辺 市 文 化 賞

未来へつながる道 田辺市
JUNCTION TO THE FUTURE
ともに歩こう。次の１０００年へ。

令和８年 受賞者

ブラッド・トウル 氏



長年にわたり、熊野の歴史及び文化の発信に尽力し、外国人旅行者の受入環境向上及び交流促進を通じて、文化観光の振興に寄与される。

田 辺 市 文 化 賞

未来へつながる道 田辺市
JUNCTION TO THE FUTURE
ともに歩こう。次の１０００年へ。

令和８年 田辺市文化賞贈呈式

日時：令和８年11月19日（木）　午後１時30分～

場所：田辺市役所　５階　庁議室



そ　が　べ　　だいごう
曽我部　大剛 氏

生　　年　　昭和34年

住　　所　　田辺市稲成町

氏は、高山寺第20世住職を務める傍ら、紀南文化財研究会に所属し、平成31年からは会長として、紀南地域の文化財及び郷土史に関する調査研究に携わってきた。また、同研究会の活動を通じて、地域に残る寺社、石造文化財、古文書、民俗資料等の調査や歴史資料の整理を地道に積み重ねるとともに、関係機関や研究者との連携を図りながら、それらの価値の再発見と保存・継承に尽力してきた。とりわけ、仏教史を専門分野として、寺院や仏教文化をはじめとする地域の歴史文化資源への理解を深めるとともに、その知見を広く地域社会へ還元してきた。さらに、地域に残る貴重な文化的資産の保存・継承に努め、その価値を地域の人々に伝えながら、次世代への継承にも取り組むなど、培った豊富な経験と知識をもって地域文化の発展に寄与してきた。

その歩みの原点には、幼少期から育まれた郷土への深い愛着がある。氏は、文化財や寺社林など歴史的・文化的環境に囲まれて育ち、父であり昭和60年（第16回）田辺市文化賞受賞者でもある曽我部玄雄氏の影響を受けながら、考古学、人類学、民俗学、宗教学など幅広い分野への関心を深めてきた。地域に暮らす人々の営みそのものを文化として捉え、郷土への深い愛情のもと、文化財及び郷土史の調査研究並びにその保存・継承活動に真摯に取り組んできた姿勢は、氏のあらゆる活動の礎となっている。

高山寺は、聖徳太子が開創し、弘法大師（空海）が自らの御影を木像に刻んで安置したとの伝承をもつ古刹であるとともに、世界的博物学者である南方熊楠及び合気道創始者である植芝盛平の墓所を有する寺院として知られている。氏は住職として寺院及び境内の文化的環境の保全に努めるとともに、先人たちが遺した歴史や文化の価値を守り伝えながら、地域文化の振興と郷土への理解の深化に貢献してきた。

加えて、平成29年４月から令和３年３月までの４年にわたり、南方熊楠顕彰館館長をとして、南方熊楠に関する研究及び顕彰活動をはじめ、貴重な資料の保存・活用、展示事業、教育普及活動の推進に尽力した。また、館長在任中（平成29年）には、南方熊楠の田辺市名誉市民推戴に向けて中心的な役割を果たすとともに、南方熊楠生誕150周年記念事業及び記念式典の推進にも尽力した。さらに、研究者や文化関係者によるシンポジウム等に積極的に参画し、南方熊楠の学問的業績や思想の普及並びに顕彰活動の発展に寄与してきた。

また、南方熊楠賞運営協議会副会長、南方熊楠顕彰会常任理事等を歴任し、南方熊楠の顕彰及び研究の推進に継続的に携わってきた。長年にわたり南方熊楠賞運営協議会の運営

にも参画し、南方熊楠の精神を受け継ぐ研究者や実践者の顕彰を通じて、その思想と業績の継承及び普及に尽力してきた。

さらに、植芝盛平翁顕彰会副会長として、植芝盛平の顕彰及びその精神の継承に携わり、地域ゆかりの文化資源の保存及び普及にも尽力してきた。このほか、和歌山県立博物館協議会委員を務め、現在も同博物館の美術資料選定委員として博物館資料の収集及び活用に携わるなど、県内文化財の保護・活用並びに博物館活動の推進に寄与してきた。

このように、長年にわたり文化財及び郷土史に関する調査研究並びに保存・継承活動に尽力し、地域の歴史や文化に光を当て、その価値を広く伝えるとともに、郷土に対する理解と誇りの醸成に努め、地域文化の発展に寄与してきた氏の功績は誠に多大である。

（学　歴）

昭和58年	大谷大学仏教学部卒業

（職　歴）

昭和60年	観音寺住職（田辺市稲成町）
平成３年	高山寺第20世住職（田辺市稲成町）
令和８年	高山寺名誉住職（田辺市稲成町）

（主な活動等）

平成３年～	「和歌山県立博物館協議会」委員として、文化財の保護・活用及び博物館活動を推進、現在に至る
平成25年～	「田辺市文化賞推薦委員会」委員として、受賞者の発掘・顕彰に尽力（令和６年まで）
平成28年～	「南方熊楠翁生誕150周年記念事業実行委員会」常任委員として、国立科学博物館での展示会ほか、記念事業を展開（平成30年まで）
平成29年～	「南方熊楠顕彰館」館長として、南方熊楠翁生誕150周年記念事業を推進するとともに、広報活動等を通じて、南方熊楠の顕彰に努める（令和３年まで）

（役職等）

平成７年～	「植芝盛平翁顕彰会」副会長
平成７年～	「南方熊楠邸保存顕彰会」理事（平成17年まで）
平成17年～	「南方熊楠顕彰会」常任理事
平成21年～	「南方熊楠賞運営協議会」副会長
平成22年～	「南方熊楠顕彰館運営協議会」副会長（平成29年まで）
平成29年～	「南方熊楠顕彰館」館長（令和３年まで）
平成31年～	「紀南文化財研究会」会長
令和３年～	「田辺市文化賞推薦委員会」委員長（令和６年まで）
令和８年～	「和歌山県立博物館協議会」副会長



ブラッド・トウル 氏

生　　年　　昭和50年

国　　籍　　カナダ

氏は、カナダ・マニトバ州出身で、母国の大学を卒業後、平成11年に一般財団法人自治体国際化協会による外国青年招致事業を通じて旧本宮町教育委員会に着任した。旧本宮町の小・中学校で外国語指導助手として英語教育と文化交流に携わる中、熱心に日本語を学び、地域の人々との交流を重ね、地域の歴史や文化への理解を深めていった。そうした経験を通じ、熊野に受け継がれてきた精神文化に深く魅了され、その後も日本やカナダにおいて観光ガイドやスキーインストラクターとして活動しながら、自然と人との関わりについて見識を養った。

熊野地域を幾度となく訪れる中で、その歴史や文化、さらには日本人の死生観にまで深い関心を寄せるようになった氏は、「日本人より熊野を熟知している」と評されるほど、熊野の歴史や文化に対する理解を深めるに至った。平成18年に田辺市熊野ツーリズムビューローの設立に際し、職員として採用されて以来、国際的な視点を活かしながら、熊野の価値と魅力を世界に発信する取組の中心的な役割を担っている。

氏は、熊野古道を単なる観光資源としてではなく、「巡礼」という普遍的なテーマで捉え、欧米やオーストラリアの旅行者を対象としたプロモーションを展開してきた。その根底には、「ブームよりルーツ」「乱開発より保全・保存」「マスより個人」「インパクトよりローインパクト」「世界に開かれた上質な観光地に」という一貫した理念があり、持続可能な観光地づくりに邁進してきた。

また、既存の英文パンフレットや案内看板における表記の不統一を解消するため、自ら英文作成に携わるとともに、公式ガイドブックを書き下ろしで制作した。さらに、旅行業「熊野トラベル」の設立に際しては、旅程管理や安全管理体制の構築をはじめ、宿泊・飲食事業者や交通事業者を対象としたワークショップの開催、指差し確認ツールの作成、ベジタリアン対応の分類整備など、外国人旅行者の受入環境の向上にも尽力した。

こうした取組は国内外から高く評価され、世界最大級の旅行ガイドブック「ロンリープラネット」への熊野の掲載を実現したほか、スペインのサンティアゴ・デ・コンポステーラ市との共同プロモーションを展開するなど、熊野古道の国際的な認知度向上に大きく貢献した。特に、熊野古道とサンティアゴ巡礼道という二つの世

界遺産の巡礼路を結び付ける取組は、宗教や文化の違いを超えた交流と相互理解を促進するものとして世界的な注目を集めている。

また、田辺市熊野ツーリズムビューローは、平成30年の観光庁長官表彰や令和元年のジャパン・ツーリズム・アワード観光庁長官賞をはじめ、令和８年にはＥＣＴＮ（欧州文化観光ネットワーク European Cultural Tourism Network）アワード準グランプリ及び一般投票賞をサンティアゴ・デ・コンポステーラ市と共同で受賞するなど、国内外において高い評価を受けている。これらの受賞は、氏が長年にわたり地域の人々とともに取り組んできた持続可能な観光地づくりと、熊野文化の国際的な発信による文化観光の振興の成果を示すものである。

また、こうした取組により田辺市への外国人旅行者は飛躍的に増加し、その活動は持続可能な観光地づくりの先進事例として広く注目を集めている。

このように、氏は田辺市熊野ツーリズムビューローの取組を牽引し、熊野の歴史や文化、精神性を世界に発信するとともに、外国人旅行者の誘致に大きく貢献してきた。また、その活動は、地域の人々が自らの文化や風土の価値を改めて見つめ直し、その魅力と誇りを再認識する契機ともなった。

熊野の歴史や文化、その精神性に深く共感し、その価値を世界へ伝えることに情熱を注ぎながら、観光を通じた持続可能な地域づくりを実践することにより、文化観光の振興に寄与してきた氏の功績は誠に多大である。

（学　歴）

平成10年	マニトバ大学スポーツサイエンス学部卒業（カナダ）
平成11年	ケベック大学フランス語学部卒業（カナダ）

（職　歴）

平成11年	旧本宮町にて外国語指導助手（平成14年まで）
平成18年～	田辺市熊野ツーリズムビューロー国際観光推進員・プロモーション事業部長

（主な活動等）

平成18年～	田辺市熊野ツーリズムビューロー国際観光推進員・プロモーション事業部長として、欧米豪の個人旅行者を対象とした誘客戦略を構築し、多言語情報整備や受入環境向上など熊野地域の国際観光推進に尽力。また、全国の自治体や大学、観光地域づくり法人などの観光関連団体にて講演や助言を実施、現在に至る
平成21年～	一般社団法人となった田辺市熊野ツーリズムビューローにて、旅行業である「熊野トラベル」の開業に際して、旅行予約システム開発の中心となり従事（平成22年まで）
平成27年～	サンティアゴ・デ・コンポステーラ市観光局との共同プロモーションである「二つの道の巡礼者（共通巡礼手帳 Dual Pilgrim）」の取組を推進、現在に至る
令和８年	紀南の日常を８人の視点で語る『紀伊民報「あがらの日記」』にて、執筆者の一人として、紀南の魅力を連載

受賞者コメント

曽我部　大　剛

私は田辺で生まれて育ち、年を重ねて、60代後半になりました。

海に近く、山も近く、自然豊かで風光明媚な「田辺」は、私にとって大好きでかけがえのない大切な郷里であります。熊野の自然と、そこに住む人々の営みによって育まれてきたこの地特有の文化の中に身を置けた幸せを、私は日々かみしめて暮らしております。

思いおこせば官民協働での文化事業の仲間に入れていただき、田辺の愛すべき文化が時を超え引き継がれていくことを切に願いながら、楽しく充実した年月を皆様と一緒に過ごすことができました。

今春、自坊の住職を退任いたしました節目の年に、思いがけなく栄えある賞を頂くことになり、微力ながら、少しは田辺の文化を守り伝えるお手伝いができたのかなと嬉しく思っております。

今回は、一緒に活動した沢山の人々と共に頂いた賞でありますので、改めて、皆々様に感謝いたしております。

ありがとうございました。

受賞者コメント

ブラッド・トウル

I am deeply honored and grateful to receive the Tanabe Cultural Award. I was very surprised to hear the news considering all the exceptional people who have received the reward before me. Even though it is a personal award I think that it goes to all our staff past and present, community members and stakeholders. To transform Tanabe into a high-quality sustainable tourism destination open to the world takes the effort of everyone involved. Thank you for letting me be a part of this historic transformation. I truly hope that Tanabe's rich culture is preserved and thrives into the future.

このたび、田辺市文化賞という栄誉ある賞をいただき、心より光栄に思うとともに、深く感謝申し上げます。これまでに受賞された方々がいずれも素晴らしい功績を残された方々であることを思うと、受賞の知らせを聞いたときは大変驚きました。

私個人に贈られた賞ではありますが、これまで共に歩んできた職員、現在の職員、地域の皆さま、そして関係者の皆さま全員に贈られた賞だと感じています。田辺を、世界に開かれた質の高い持続可能な観光地へと発展させていくためには、関わるすべての人々の力が必要です。

この歴史的な変革の一端を担わせていただいたことに、心より感謝申し上げます。

田辺が誇る豊かな文化がこれからも大切に守り継がれ、未来に向けてさらに輝き、発展していくことを心から願っています。